

### CONTENTS NIHONGO-KYŌIKU TSŪSHIN No. 58/MAY 2007

- 表紙・特集 ..... 1  
日本語能力試験の現在と未来  
日本語試験センター設立準備室次長  
金田 泰明
- 『日本語教育通信』継続送付希望アンケート  
集計結果 ..... 3
- 日本語の教え方イロハ 第4回 ..... 4  
初級の教え方
- 授業のヒント ..... 6  
ことばで遊ぼう
- 新聞・雑誌から見る現代日本 第26回 ..... 8  
2007年問題  
団塊世代の退職始まる
- 本ばこ (新刊教材・図書紹介) ..... 11
- 文法を楽しく!! 第8回 ..... 14  
現象描写・判断・働きかけ (1)
- KC (関西国際センター) 研修生の  
Nipponレポート 第8回 ..... 16  
日本の若者は礼儀正しいですか

※ 本誌で、ルビが文字の下に付いているのは、紙や物差しなどでルビを隠して、漢字の読みの練習ができるようにするためです。

### On the Web

- http://www.jpj.go.jp/j/japan\_j/publish/tsushin/index.html
- 以下の記事はJFのウェブサイトのみにてご覧になれます。
- 日本語・日本語教育を研究する 第32回  
談話から見た文法  
筑波大学人文社会科学部教授 砂川 有里子
- 授業に役立つホームページ 第17回  
Web2.0と日本語教育 (2)  
一写真中心のSNS (ソーシャルネットワークワーキングサービス)「フォト蔵」
- 海外日本語教育レポート 第15回  
スリランカの中等教育における日本語教育の現状  
国際交流基金派遣日本語教育専門家 和田 衣世
- にほんごハローワーク 第8回  
誰にでもできる平和貢献を広めたい  
ケイシー・ジョシさん  
株式会社エイチシーエル・ジャパン  
コーディネーター (出身:インド)

### 『日本語教育通信』 第58号

2007年5月発行

編集・発行 国際交流基金 日本語グループ  
〒107-6021 東京都港区赤坂 1-1-2-32  
アーク森ビル 21F  
TEL. 81-3-5562-3525 FAX. 81-3-5562-3498  
E-Mail. jfnct@jpj.go.jp  
編集協力  
株式会社アーバン・コネクションズ

## 日本語能力試験の現在と未来

国際交流基金日本語事業部 日本語試験センター設立準備室次長  
金田 泰明

### 1. 日本語能力試験の現在

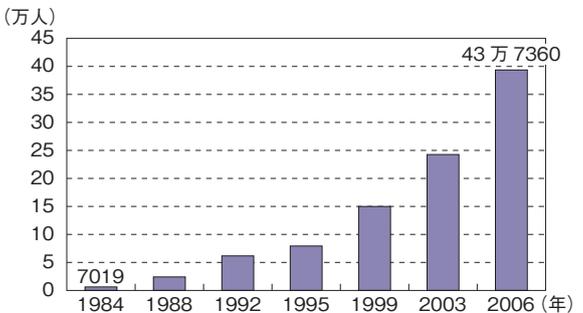
2006年12月3日(日曜日)に第23回目の日本語能力試験が行われました。中国で、タイで、カナダで、メキシコで、フランスで、ケニアで、あわせて47の国・地域、147都市において、日ごろの学習の成果を試そうと、全部で43万7千人余りの学習者が熱心に受験しました。

日本語能力試験は、1984年に始まりました。以来、毎年12月初めの日曜日に全世界で一斉に実施してきました。1984年には、日本国内も含めて、15か国・都市で実施し、約7千人の受験者がありました。それが、2006年には、43万7千人余りの数となったわけです。現在、1日に実施するテストとしては、世界最大規模の試験なのではないか、と思われます。これまで、受験者の数は、図1のグラフのように、どんどん伸びてきています。

受験の目的は、自分のレベルを知って今後の学習に役立てるため、といったもの

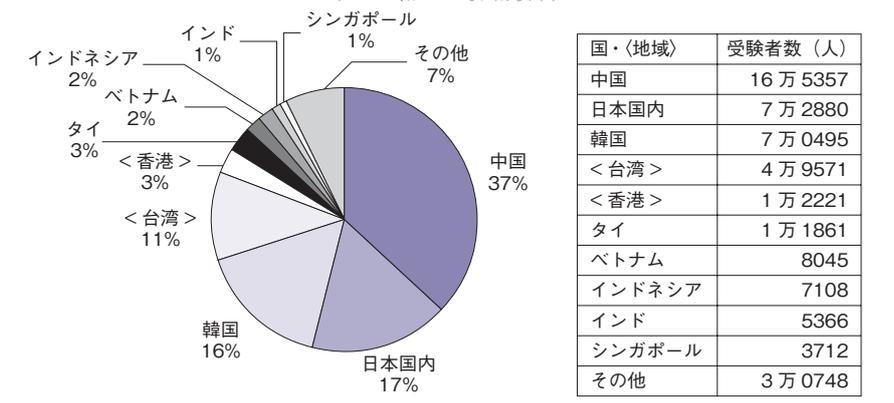
から、留学、就職、会社での昇給の判断材料とするため、とさまざまです。近年、特にアジアで、就職や昇給のために受験する人たちが増えていることが、受験者の急増の原因だと思えます。

図1 受験者数の推移



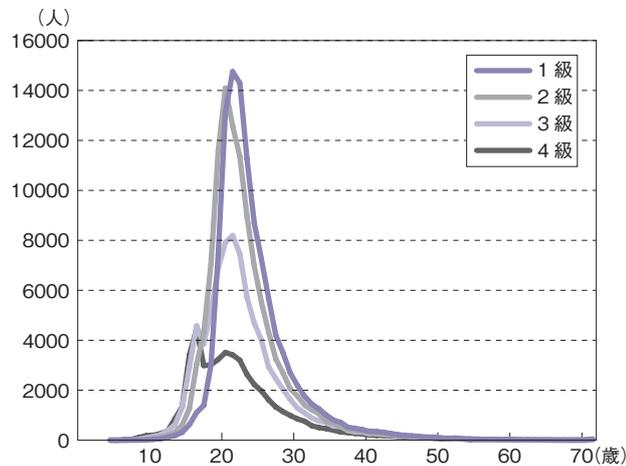
国別に受験者の多い順に見ていくと、図2のように、中国、日本国内、韓国となっていて、東アジアの受験者が多いことがわかります。学習者が多いことに加えて、就職や昇給のために使うことが多くなってきたことが、受験者の多さに反映していると思えます。

図2 国別の受験者数



日本語能力試験を受けている人たちの年齢構成はどのようになっているのでしょうか。図3をご覧ください。初級レベルでは、やはり、世界の日本語学習者の7割近くを占める10代の高校生ぐらいの年齢の人が多くを占めているのがわかると思います。2級、1級になりますと、20代前半、大学の3年生、4年生ぐらいが圧倒的に多いことがわかります。

図3 受験者の年齢構成 (2005年の分析資料による)



日本語能力試験では、できるだけ多くの人に受験する機会を提供することに努めており、そのため、障害のある人たちのための受験特別措置を行っています。2006年には、視覚障害、聴覚障害、運動障害、学習障害などの障害のある人たち95名に対して、障害者教育の専門家とも相談して、さまざまな受験特別措置を行いました。視覚障害の人のための点字問題や、文字を拡大した問題による受験、聴覚障害の人のための科目免除、別室受験や、必要な人には聴解試験の時間延長テープによる受験などの措置を行っています。

## 2. 日本語能力試験の未来

さて、日本語能力試験が始まってからの20年以上の間に、応用言語学、日本語教育学、テスト理論の発展があり、日本語能力試験のデータも十分に蓄積されてきました。私たちは、これらの成果を反映した試験にしていくな必要があると考えています。また、海外の学習者が3級から2級に進むには、大きな困難と長い時間を必要とする、このことを何とかしてほしい、実際に社会で使うことができる日本語という観点からもう少し運用能力を測るものにしてほしい、といった声がありました。このため、現在改定を行っており、2009年からは、新しい日本語能力試験を実施したいと考えています。この改定の方針について、ご紹介したいと思います。今回の改定では、海外の学習者が、スムーズに学習の階段を上がっていくことができるようにレベルを調整するとともに、最新の学術研究に基づいて、次のようなこと

実現をめざしています。

### ① 課題遂行能力とそのためのコミュニケーション能力を測定する試験とする

「課題遂行能力とそのためのコミュニケーション能力」については、2001年に発表された『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』<sup>注1)</sup>の「行動中心主義」や、最近の各国のスタンダードなども共通する方向性であると考えます。実際に社会で役立つ日本語能力を、更によりよく測る試験とするよう、現在研究を重ねています。

### ② 「○○ができる(can-do statements)」による能力基準

従来の能力基準は、漢字が何字、語彙数がいくつ、学習時間数が何時間で、「高度の／やや高度の／基本的な／初歩的な文法」といった記述により示されています。これを、受験者や、関係者にとって更に具体的にわかりやすくするために、あるレベルに合格すると、実際にはどういことができるようになるのかを示したいと考えています。そうすることによって、この試験の認定を受けた人が、実際の社会生活の中でどのようなことができるかを示すことができ、学校や会社などに入ったとき、どのようなことができるのか、推測ができるようになると思います。参考例として改定のためのアンケート調査を行ったときの記述文の一部を次に示します。

表1 (能力記述文「聞く」の例)

店、郵便局、銀行で、簡単な説明を聞いて、理解できる。
家庭で日常的に使う電気機器の使い方を聞いて、理解できる。
周りでしているおしゃべりを聞いて、話題がだいたい理解できる。
職場での母語話者同士の活発な会話を聞いて、ついていける。
参加しているディスカッションの要点を、理解できる。

### ③ 等化

等化とは、試験問題は毎回異なるが、同じ能力の人がどの試験を受けても同じ点数が取れるようにするということで、TOEFLなどが行っている方式です。日本語能力試験では、上の級の試験でこの方式を採用しようと検討しています。これにより、より信頼性の高い試験にしたいと考えています。

注1) Council of Europe (2001). Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment. Cambridge University Press

(日本語版) 吉島茂／大橋理枝 (他) 訳・編 (2004) 『外国語教育II-外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社